

本日の問い

『東南アジアでは、気候を生かしてどのような生活を営んでいるのか？』

※No.17のプリントと同様

7 モンスーンの影響と人々の生活 教p.78-79

例②

東南アジアの米食文化



教科書p.78-79を読みながら、次の文章に適語を記入しよう

- 東南アジアで① 稲作 が特に盛んなのは、ジャワ島やインドシナ半島の平野部など、季節風の影響を強く受ける地域である。
- 1960 年代、短期間で収穫できる② 高収量品種 が開発され、政府による灌漑整備や肥料の補助を受けて広く普及した。これらの農業の技術革新は③ 緑の革命 とよばれている。
- 現在では機械化が進んで商業的な稲作も広くみられ、灌漑により年に 2 回、稲を栽培する **二期作** が行われる場所も多い。
- 東南アジアでは、熱帯の気候を生かして、さとうきび、天然ゴム、油やし、バナナ、コーヒーなどの④ 商品作物 が⑤ プランテーション でつくられ、世界各地に輸出されている。
- 東南アジアの国々は、工業化を図ることで農産物や鉱産資源の輸出に依存した⑥ モノカルチャー経済 から脱却し、人々の生活水準を高めようと努力してきた。
- マレーシアやインドネシアでは、洗剤などの原料となる油やしの栽培地が拡大し続けてきた。また、インドネシアなどの海岸部では、マングローブを切りひらいてつくられた養殖池で、えびや魚の養殖が行われ、日本などへ輸出されている。こうした開発により、熱帯林の破壊が進んでいる地域もある。

[Work & Question]

Work 1 右の図の稲作地にあたる地域を
緑で着色しよう 教p.78 ③

Question 1 東南アジアで稲作が盛んになった自然的な背景を、
Work 1 の図や No.17 の図 2 を参照し、
60字以上90字以内で説明しよう



チャオプラヤ川など大河川沿いの三角州地帯が低平であり、季節風の影響による雨季の降水と乾季の強い日差しが稲の生育に適しているから。(64字)

POINT

- 東南アジアの気候と生活文化との関係
(農業と食生活)

稲作 高収量品種 緑の革命 二期作 商品作物 プランテーション モノカルチャー経済

本日の問い

『 東南アジアでは、気候を生かしてどのような生活を営んでいるのか？ 』

問いの答え [学習後のまとめ] ※No. 17 のプリントの内容もふまえて考えよう



◎評価の規準 【態】問いについて主体的に追究しようとしている。A十分満足できる Bおおむね満足できる C努力を要する

▼ 振り返り (できたら☑をつけよう)

- ☐ 問いの答え [学習後のまとめ] を “自分の言葉” で書く
- ☐ Googleフォームに回答

2年 組 番 名前